

1 概要

- 1 - 1 背景・目的
- 1 - 2 対象範囲
- 1 - 3 検討の流れ
- 1 - 4 検討テーマ

1-1 背景・目的

(1) 背景

○令和元年8月 「TOKYO Data Highway 基本戦略」 公表

- ・東京都立大学を「5Gの重点整備エリア」として位置付ける。

○令和元年12月 「未来の東京」戦略ビジョン 公表

- ・南大沢地区を「スマート東京」先行実施エリア（※）として位置付ける。

（※）5Gと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装を先行的に実施していくエリア

○令和2年2月 「スマート東京実施戦略」 公表

- ・南大沢を最先端の研究とICT活用による住民生活の向上が融合した持続可能なスマートエリアとして目指していく。
- ・先端技術を活用したまちづくりの検討として、「協議会の設立」や「実証実験の推進」をしていく。

○令和2年2月 「南大沢駅周辺地区まちづくりの方向性（案）」を提示

- ・まちづくりの将来像に「スマートなまち」として、「先端技術活用や産学公連携の促進」や「駅前と住宅地間のアクセス性強化」を位置付ける。

○令和3年3月 「未来の東京」戦略を提示

- ・「地域特性に応じたスマートなまちづくりの展開」において、南大沢地区を「先端技術を活用したまちづくりの検討・実証実験」、「多様な先端技術を社会実装・他地域展開」と位置付ける。

○令和5年3月 「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」を提示

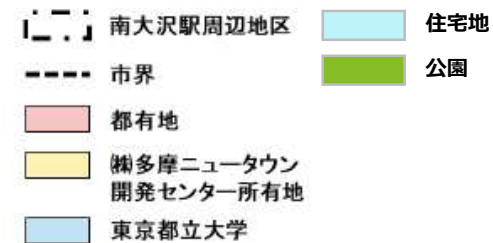
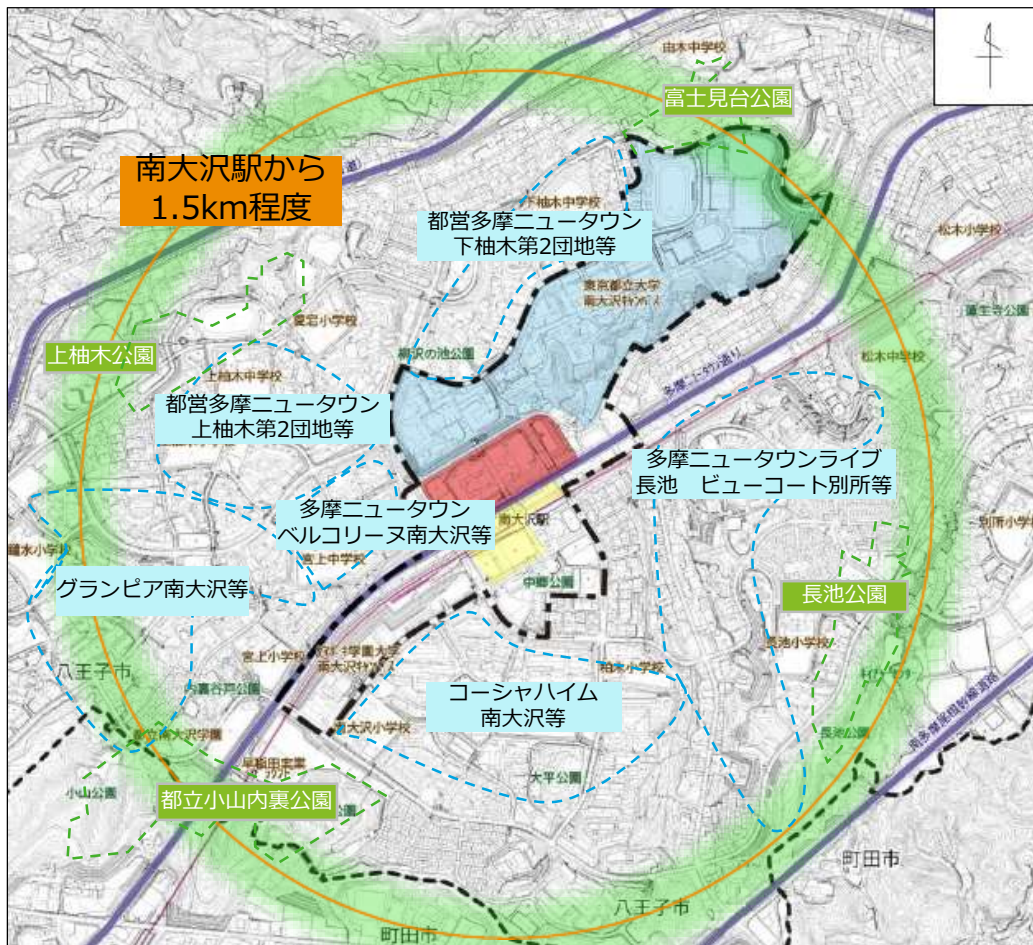
- ・分野別のまちづくり方針に「先端技術の方針」や「エリアマネジメントの方針」等を位置付ける。

(2) 目的

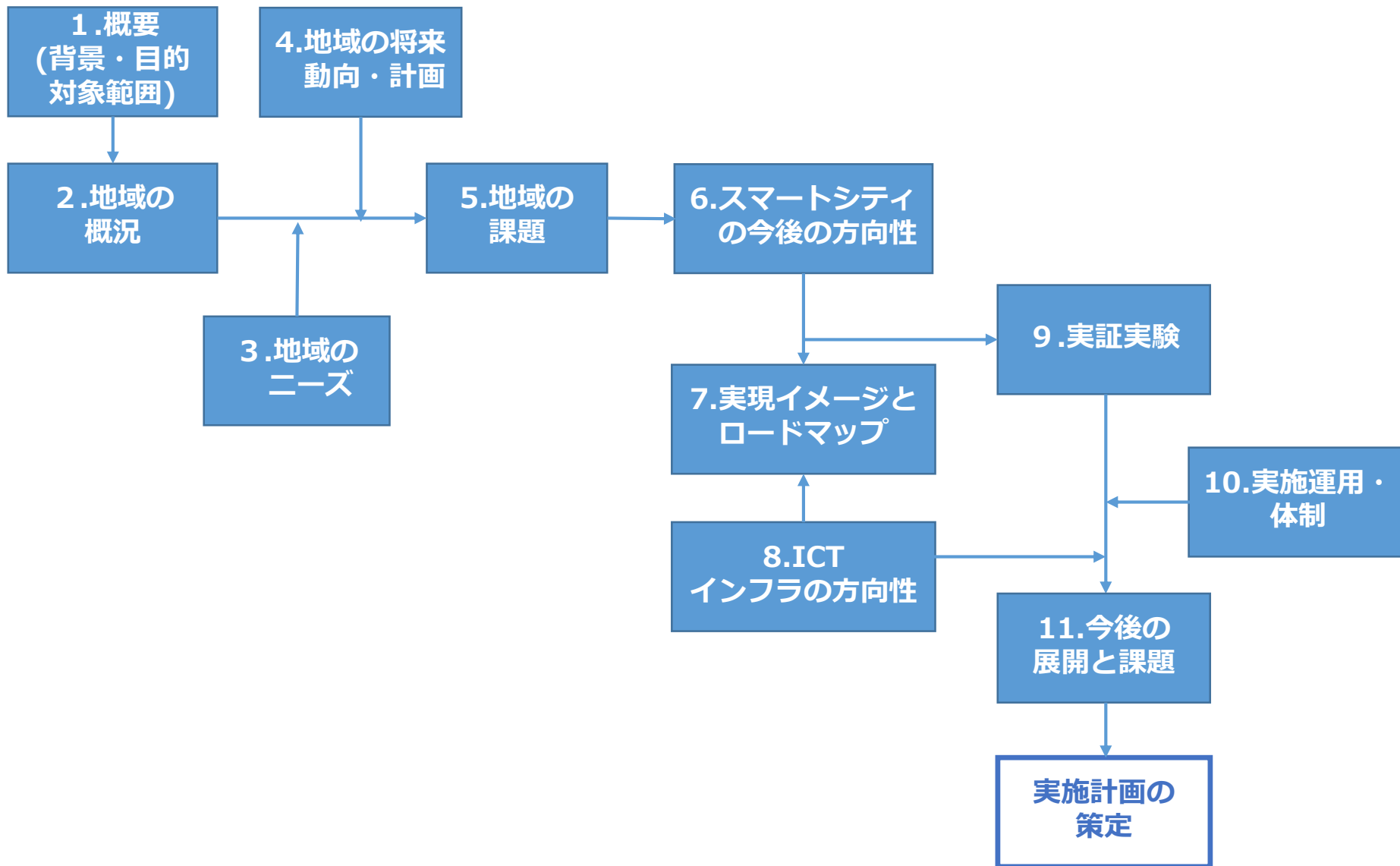
- ・南大沢駅周辺は、都立大学をはじめ、商業施設や公共施設が集積し、学術研究と賑わい拠点が形成されている一方で、起伏が大きい丘陵地であるため、高齢者等の移動等が課題となっている。
- ・こうしたまちの課題に対し、将来の動向等を踏まえ、産学公が連携して新たなスマートサービスを多数実装することで都民のQOL（生活の質）の向上を実現していく。

1-2 対象範囲

- 令和2年度は駅直近エリアだけを対象範囲としていたが、周辺の4か所の公園等の南大沢を象徴する地域資源や住宅団地を含むエリア（1.5km程度）へ対象範囲を拡大し検討を行う。
- また、検討の中心となる「コアエリア」として、ペDESTリアンデッキやロータリー、駅前商業施設等の駅前エリアを想定している。



<スマートシティ実施計画の検討の流れ>



- 「モビリティ」、「まちの賑わい」、「情報、その他」の領域別にテーマを分けて、モビリティ領域はモビリティ部会、まちの賑わい領域はまちの賑わい部会、情報領域及びその他領域は情報・その他部会にて検討を行う。

